

北海道津別町まちづくりアイデアコンペ  
～持続可能なオンリーワンの町、津別町～

『愛林のまち』としてのシンボルおよびコンパクトシティ化について

われわれの考えた仮説をのべさせていただきます。

その前に

われわれの考える津別町の  
ストロングポイントとウイークポイント  
を整理しました。

## ストロングポイント

- ・木質工業の経済効果が大きい
- ・木質製品が他地域と比べ高付加価値
- ・自然は豊かで日帰りの観光客数は増えている

## ウィークポイント

- ・生産者人口が流出し減少している
- ・近隣市町村でも似通った状況が存在する
- ・住民が生活する上での満足度が低い

これを踏まえ  
津別町が抱えている問題点  
『人口減少』について考えました。

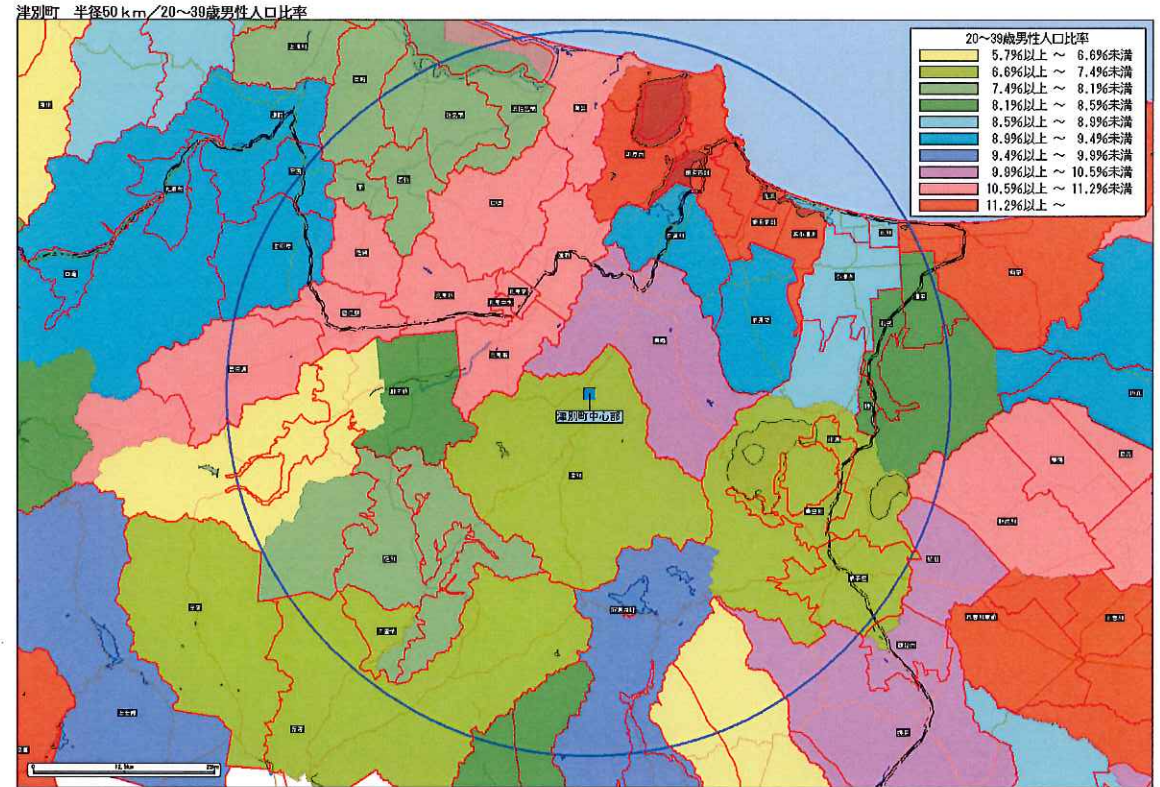
特に生産者人口の減少で町の経済に大きな影響を  
与えているものと考えます。

では  
若者はいったいどこにいらっしゃるのでしょうか？

【市町村別人口比】

市町村名	20～39歳男性人口比率（％）
北海道網走市	13.7
北海道野付郡別海町	11.7
北海道河東郡鹿追町	11.6
北海道斜里郡斜里町	11.2
北海道標津郡中標津町	11.1
北海道目梨郡羅臼町	10.7
北海道北見市	10.6
北海道厚岸郡浜中町	10.4
北海道網走郡美幌町	10
北海道川上郡標茶町	10
北海道釧路市	9.8
北海道河東郡上士幌町	9.7
北海道上川郡新得町	9.5
北海道紋別郡遠軽町	9.3
北海道標津郡標津町	9.3
北海道網走郡大空町	8.9
北海道斜里郡小清水町	8.8
北海道厚岸郡厚岸町	8.8
北海道紋別市	8.7
北海道常呂郡訓子府町	8.4
北海道白糠郡白糠町	8.4
北海道上川郡上川町	8.2
北海道斜里郡清里町	8.1
北海道紋別郡湧別町	8
北海道常呂郡佐呂間町	7.8
北海道足寄郡陸別町	7.4
北海道川上郡弟子屈町	7.3
北海道網走郡津別町	7
北海道足寄郡足寄町	6.9
北海道阿寒郡鶴居村	6.5
北海道紋別郡滝上町	6.1
北海道常呂郡置戸町	5.8

若い男性はどこに住んでいるのか？



※2015年 GIS データより

【市町村別人口比】

※津別町役場より半径50km圏内

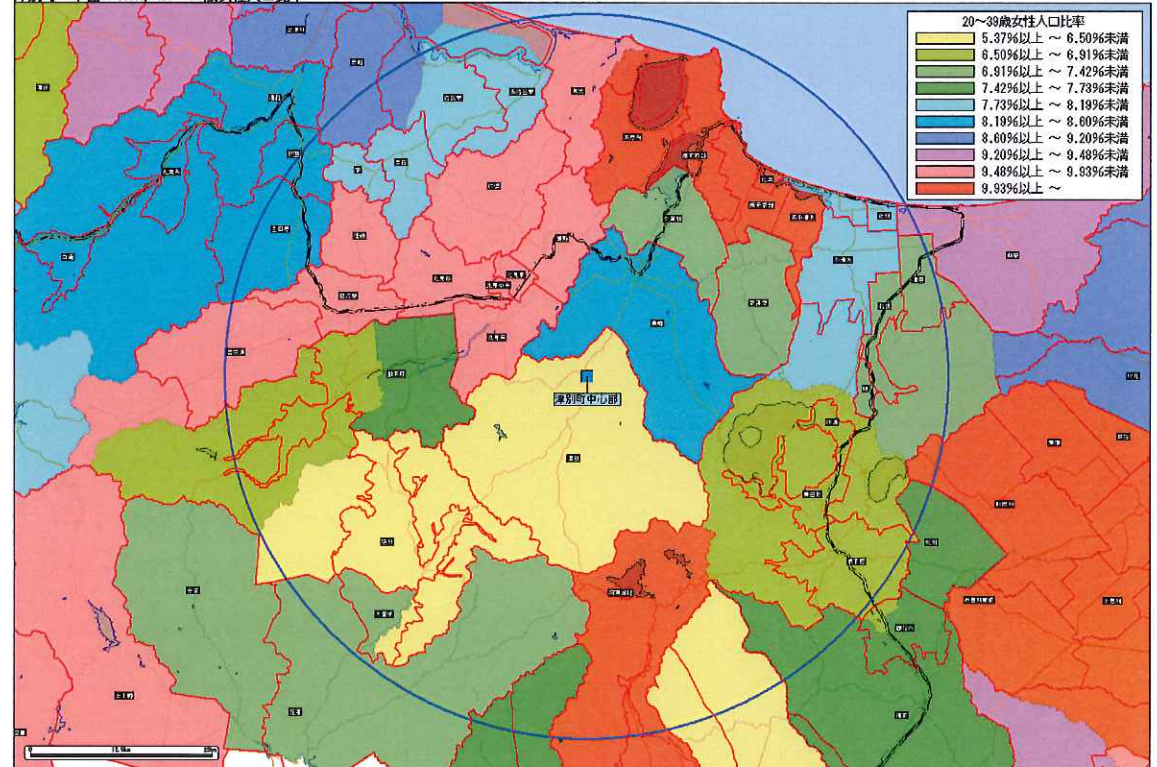
市町村名

20～39歳女性人口比率 (%)

北海道標津郡中標津町	10.7
北海道野付郡別海町	10.24
北海道釧路市	10.11
北海道網走市	10.01
北海道北見市	9.92
北海道河東郡鹿追町	9.89
北海道河東郡上士幌町	9.78
北海道厚岸郡浜中町	9.67
北海道紋別市	9.47
北海道斜里郡斜里町	9.46
北海道厚岸郡厚岸町	9.23
北海道標津郡標津町	9.19
北海道目梨郡羅臼町	8.84
北海道紋別郡湧別町	8.66
北海道網走郡美幌町	8.59
北海道紋別郡遠軽町	8.35
北海道上川郡新得町	8.25
北海道常呂郡佐呂間町	8.18
北海道上川郡上川町	7.87
北海道斜里郡小清水町	7.86
北海道川上郡標茶町	7.72
北海道常呂郡訓子府町	7.52
北海道白糠郡白糠町	7.45
北海道斜里郡清里町	7.41
北海道網走郡大空町	7.07
北海道足寄郡足寄町	7.07
北海道紋別郡滝上町	6.9
北海道川上郡弟子屈町	6.89
北海道常呂郡置戸町	6.81
北海道足寄郡陸別町	6.49
北海道阿寒郡鶴居村	6.36
北海道網走郡津別町	5.38

若い女性はどこに住んでいるのか？

津別町 半径50 km / 20～39歳女性人口比率



※2015年 GIS データより

このように津別町の若者比率は近隣市町村に比べて低い事が解りました。

では、

いったい若者が居なくなる原因は何なのでしょう？



津別町に若い男女が来ない理由はなんだろうか？

「スタバがない！」

「H&Mがない！」

「TSUTAYAがない」

「マツキヨがない！」

「イオンがない！！」

「セレクトショップがない！！」

など色々想像してしまいましたが  
若者の欲求には切りが無く流行の変遷も激しい為  
対応には莫大な費用が必要となります。

そこで考え方を改めてみました。

本当に若者攻略が人口増に繋がり  
安定したサステイナブルな町の運営になるのでしょうか？

## 仮 説

アクティブシニアが元気な町は  
安定志向の若者に受け入れられるはず。

それならば

木造のビルを建てて

コンパクトシティ化による効率も実現しながら

アクティブシニアを呼び込みませんか？

## 我々のご提案

津別産の CLT（直交集成板）で木質のビルを建てませんか？



ヨーロッパでは既に先行している CLT（直交集成板）ですが  
周辺市町村とも協業し津別産 CLT を生産して  
10 階建て以上の木質ツインタワーを津別町に建築。  
町全体で基幹産業である林業・木質製造業を応援。  
『津別産 CLT』を世界にアピールするのはいかがでしょうか？  
雇用創出にも一躍担い、町のシンボルにもなります。

ヨーロッパでは環境負荷の少ない木質ビルが建ちつつあります。

オーストリア ウィーンで 2018 年完成予定、24 階建ての木造ビル



出典 URL : <http://architecturehack.com/24%E9%9A%8E%E5%BB%BA%E3%81%A6%E9%AB%98%E3%81%9584m%E3%81%AE%E4%B8%96%E7%95%8C%E6%9C%80%E5%A4%A7%E3%81%AE%E6%9C%A8%E9%80%A0%E9%9B%86%E5%90%88%E4%BD%8F%E5%AE%85%E3%81%8C%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC/>



スウェーデンストックホルムでの設計コンペ応募作品



C. F. Møller 建築事務所: 建築家 Dinell Johansson

出典 URL : <http://www.ma-che-rie.com/c-f-moller-designs-worlds-tallest-wooden-skyscraper/>

2015年8月31日 日本経済新聞 夕刊

単に木造のビルを建ててもあまり話題にならず  
折角の事業も悲しい結果になるだけです。

どこかに

津別町ならではの

津別町らしさ

津別町のオリジナルなコンテンツを産み出すきっかけは無いか？

津別町には既に多くの素敵なコンテンツが有ると思います。  
特に谷川俊太郎さんの『ふたごのき』という作品は



津別町の『双子の桜』をモチーフにしたとのこと。  
こんな素敵なストーリーを我々は知らずにいました。

## 双子の桜をモチーフに



写真 / OFFICE NMD 森下暢亮

双子のタワーを木で建てて津別町をアピールしませんか？



Image by Akio Takakuwa

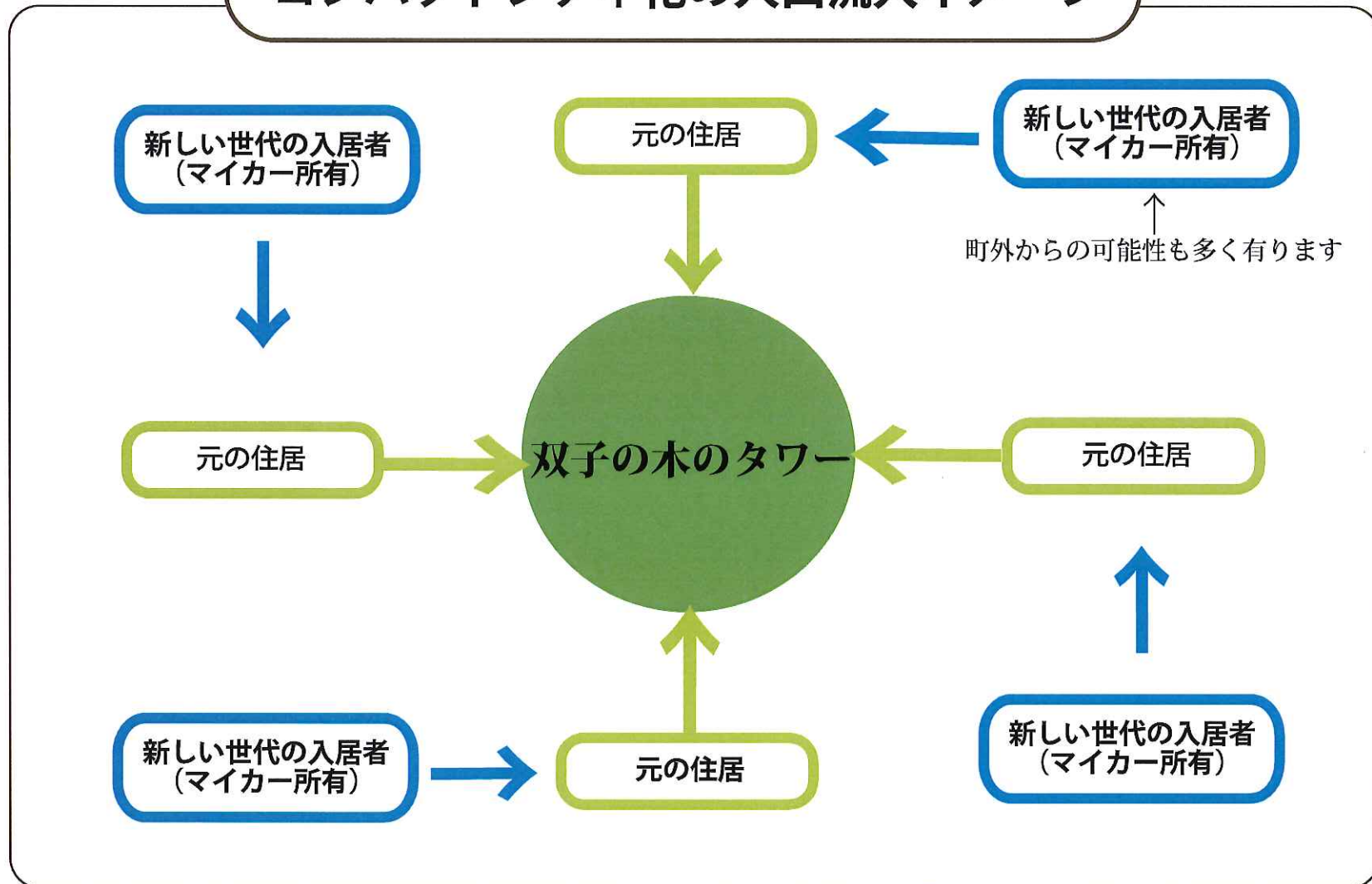
これこそ『緑のふるさと 愛林のまち』ではないでしょうか。

## 問 題 点

- 使用用途（想定：高齢者マンション、3階までは商業施設および公共施設など）
- 各種法令に対する各種官庁への調整
- 費用の拠出：(町からの拠出) + (地元企業からの援助) + (各省庁・道の補助金)
- 新しい技術のためその開発費用（生産ラインの確保など）
- 住民の同意（リスクを取ってでも希望的な未来を望む事を理解させられるか）



## コンパクトシティ化の人口流入イメージ



マイカーの使えない元の住民は双子の木のタワーで極力歩く必要の無い生活が可能。

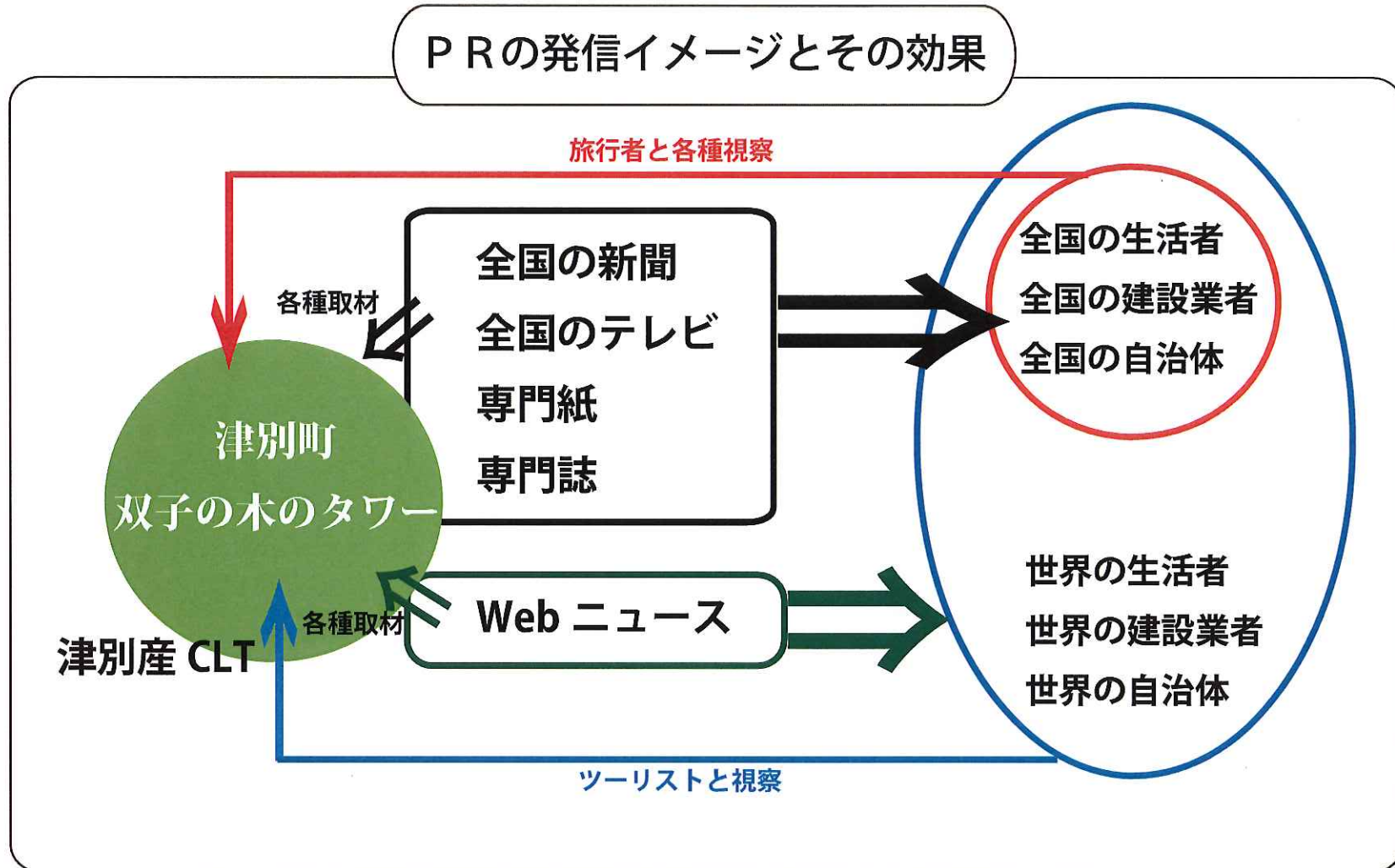
問題点をクリアした後には  
コンパクトシティの実現へ歩み出す事が出来  
『津別町』というオリジナルなブランド化が進み  
近隣市町村との協業しながらも差別化もはかれます。

そんな町には  
人々が集まって町が潤い

活気ある町政が営まれ、様々なシナジーを産み出す好循環が創出されます。

この計画を決定した場合  
出来上がるまでのタイムラグの間にも経済効果は生まれます。

この計画が決定された段階で話題性により広くPRする事が出来  
津別町を全国区に押し上げ、また世界に発信できます。



設計のコンペ実施し世界に公募するのも高い効果が得られます。

恐らく大きな障壁は数々有る事でしょう。  
その問題に全ての町民と共にぶつかって  
解決していく事で  
新たな『絆』が生まれ  
より強固な『津別愛』が醸成される事と信じております。

皆様の愛する津別町のために。

ご清聴ありがとうございました。